

協議結果（報告）

協議書提出状況	①久留米市障害者地域生活支援協議会 全体会 委員14名 欠員 3名 ②委員14名中14名提出
---------	--

協議事項 1. 各部会事業報告書および事業計画について

(1) 結果

承認14名、不承認0名

(2) 委員意見

委員	意見
委員	＊コロナ感染防止のために多くの会議、人と人とのつながりが出来なくなっている。障害ある人達の困っていることや不安などの声を拾いあげる場が必要だと感じる。よって地域生活支援拠点の仕組みづくりがとても重要だと思う。
委員	＊こども分科会については、親の障害受容に力を注ぎ、本人の自己肯定感に繋げてほしい。障害者差別解消法の実施に伴い、あらゆる場面に障害者が進出していける可能性が増していくと思うし、この法律を生かした施策の実行が、親亡き後の不安解消につながり、健常者も含め生涯を通じての安心を手に入れる事に繋がると思う。 ＊加えて、障害者の生活は一般的に知られておらず、健常者として生まれ育った親からすれば、自らの生活と照らし合わせても想像が出来ず、不安が生じても仕方が無いところがある。そこで、大人の障害者が仕事や余暇、友人や地域活動等、どのような暮らしをしているのかを知る機会を作り、将来の展望とすべきと思う。
委員	＊今後部会を進める際、以下の点に留意してほしい。 ①計画推進部会 ・次期計画（第6期市障害福祉計画、第2期障害児福祉計画）の策定に際しては、本年度からスタートしている「久留米市支え合うプラン」との関係が明記されるようお願いする。 ②地域包括ケアシステム検討部会 ・新たに令和3年度より取り組みが始まる（可能性の高い）、「重層的支援体制整備事業」との整合が図られるよう留意をお願いする。
委員	＊全体会の役割は「各部会からの報告を受けて、地域課題等を確認し、市へ報告・提案を行う」となっている。 ・全体会と各部会の関係性が分からない。実施スケジュールはどうなっているのか。

協議結果（報告）

	<ul style="list-style-type: none"> ・施策推進部会の各分科会の事業報告について、実施した事項のみ記載され意見や考えなどの記載がない。今後は事業を実施したことでの意見等を記載するように依頼する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> *この計画に基づいて実施され、そのことが当事者の方の生活等に生かされていくことを本当に願っている。 *地域の中で本当に当事者の方が何でも言えて、周りも一緒に生活する中で気づいたら手を貸したり、声をかけられたりする様になることに向けて取り組んでいく。そのためにはもっと「人権」への取組みの啓発を進めていかねばと改めて思う。

協議事項 2. 基幹相談支援センターの運営状況について

(1) 結果

承認14名、不承認0名

(2) 委員意見

委員名	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> *基幹相談支援センターが設立して4年経つが、利用人数や相談件数を見て身体障害者がどこまで基幹相談支援センター（以下、センター）を知っているのか少し不安になった。 *もっと私達の会議でもセンターのことを伝えていかなくてはいけないと思ったが、市もセンターが身のまわりの困ったことを相談できる場所であることを分かりやすく周知してほしい。 *特に、身体障害者は年齢が上がれば上がるほど身体の自由がなくなるので、相談窓口は多ければ多いほど良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> *久留米市の全てのことを基幹相談支援センターだけでは出来ない。親の会など協力できることがあればやりたいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> *基幹相談支援センターが様々な困難事例を抱えていることがよく分かる。しかしながら、地域移行への働きかけは十分ではなく、アウトリーチはそこから始めるべきではなかろうか。特に、収容型の法人施設を持つ母体の基に運営されている基幹相談支援センターでは、その事が求められる。 *困難事例に際しては、スーパーバイザー的役割を求める向きもあるが、その役割を担う人材として障害者福祉分野にこだわるのではなく、広い視座に立ち様々な提案が出来る人を求めたい。しかし、その様な人材は既にどこかで雇用されているため、相談員自らが各場面に応じたスーパーバイザーを用意しておくべきではなかろうか。

協議結果（報告）

委員	<p>*年々詳細で具体的な運営報告がなされており、各基幹相談支援センターの運営・管理の方法の発展が見られており嬉しく思う。</p> <p>*また、課題提示と目標設定も出来ている点は評価したい。</p>
委員	<p>*本年度全体会が開催されない状況が悔やまれる。当事者の方が、自分がしたいこと、やりたいことが言えて、その願いを達成していくにはどうしたらいいのか、基幹相談支援センターの方々と地域の私たちも一緒にしっかり考えていきたいと思う。</p> <p>*一人ひとりの思いは違うと思うが、「いきがい」を持てる日々になるように共に歩きたいと思う。そのためにはもっと基幹相談支援センターの方々と接していきたいし、そのような機会を望んでいる。</p> <p>*久留米市では「障害者差別禁止条例」の制定を求める請願が採択されたので、すごく期待している。「条例」が出来て変わったということを望んでいる。</p>
委員	<p>*校区社会福祉協議会連合会としても、地域での見守りや支え合いの中で、障害者の課題について関係機関へのつなぎ等を行っていく。</p>